

令和 7 年

子ども若者支援・共生社会推進特別委員会会議録

と き 令和 7 年 7 月 2 9 日

品 川 区 議 会

令和7年 品川区議会子ども若者支援・共生社会推進特別委員会

日 時 令和7年7月29日（火） 午後1時00分～午後4時18分
場 所 品川区議会 議会棟6階 第1委員会室

出席委員	委員長	せ お 麻 里	副委員長	ゆ き た 政 春
	委 員	西 村 直 子	委 員	澤 田 え み こ
	委 員	大 倉 た か ひ ろ	委 員	つ る 伸 一 郎
	委 員	鈴 木 ひ ろ 子	委 員	せ ら く 真 央

欠席委員 委 員 木 村 健 悟

出席説明員	佐 藤 子 ど も 未 来 部 長	三 輪 子 ど も 育 成 課 長
	芝 野 保 育 入 園 調 整 課 長	佐 藤 保 育 事 業 担 当 課 長
	染 谷 保 育 施 設 運 営 課 長	寺 嶋 福 祉 部 長
	東 野 参 事	石 井 学 務 課 長
	(福祉部福祉計画課長事務取扱)	

○午後 1 時 0 0 分開会

○せお委員長

本日は、審査・調査予定表のとおり、特定事件調査、視察およびその他を予定しております。

なお、木村委員はご欠席されるとご連絡をいただいております。

また、本日は議題に関連して保育入園調整課長、保育施設運営課長、保育事業担当課長および学務課長にご同席いただいておりますので、ご案内いたします。

本日も効率的な委員会運営に、ご協力をよろしくお願いいたします。

議題に入ります前に、本日の進行についてご案内いたします。

本日は、特定事件調査として、幼稚園・保育園に関するもののうち、区立・私立の幼稚園のあり方について調査を行う予定です。

また、調査に関連して、品川区立城南幼稚園の視察を行います。

本日の全体のスケジュールとしては、この後に特定事件調査を議題とし、理事者より説明を受けます。説明終了後に委員会を休憩し、城南幼稚園へ視察に向かいます。視察終了後に庁舎に戻り、委員会を再開し、特定事件調査を再度議題として議論を行いたいと思いますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

1 特定事件調査

幼稚園・保育園に関するもの

○せお委員長

それでは、予定表 1 の特定事件調査を議題に供します。

幼稚園・保育園に関するもののうち、区立・私立幼稚園のあり方についての調査を行います。

理事者より、区立幼稚園の今後の運営等についてご説明をいただきます。

なお、説明終了後に委員会を休憩し、視察に向かいます。

質疑等は、委員会運営の都合上、視察から戻り、委員会を再開した後に行いますので、あらかじめご了承ください。

それでは、理事者よりご説明をお願いいたします。

○芝野保育入園調整課長

それでは、私から特定事件調査 1 の幼稚園・保育園に関するもののうち、区立・私立幼稚園のあり方についてご説明させていただきます。

サイドブックの資料 1 ページをご覧ください。

こちらの資料は、令和 3 年度、4 年度に検討が行われた区立幼稚園の今後の運営等について、ホームページ上で公開されております資料を一部加工させていただいたものでございます。

本資料をもちまして、当時の検討の経緯、概要、方向性等につきまして、ご報告させていただきます。初めに、項番 1 の経緯でございます。

検討開始当時、保育ニーズが高まる一方で、幼稚園の入園希望者が年々減少しました。加えて、増加傾向が続いていた就学前人口が減少に転じ、今後も減少傾向が続くと見込まれておりました。このような背景を踏まえ、区立幼稚園の今後のあり方や役割を改めて見直すため検討委員会を設置し、運営等の方向性を検討したものであります。

項番 2、検討における基本的な視点をご覧ください。

検討は、3つの視点を重視して行われております。

視点1の子どもの成長の視点は、区の乳幼児教育の理念に基づき、一人一人の子どものよさと可能性を発揮し、望ましい未来をつくり出す力の基礎を育むため、幼児教育・保育の質の向上を図るとともに、集団教育に必要な規模の適正を確保するという視点でございます。

次に、視点2の保護者・子育て支援の視点は、子育てに不安や負担、孤立等を感じる保護者を支援し、また、子どもの最善の利益の視点から、安定した親子関係の構築や保護者の養育力の向上を目指すため、在園児の保護者に対する子育て支援および区立幼稚園に入園を検討している家庭への支援の充実を図るという視点でございます。

最後に、視点3の行政経営の視点は、人材、施設、費用などの限りある行政経営資源を有効活用するため、区立幼稚園が果たすべき役割を踏まえつつ、幼児教育・保育に対するニーズの変化に的確に対応していくという視点でございます。

項番3、今後の運営の方向性をご覧ください。

基本的な考え方として、幼保一体施設6園についてはその特徴を活かしつつ、0歳から就学までの一貫した子どもの保育・教育と小学校への円滑な接続の推進を図るとともに、特色ある多様な保育・教育活動や地域の子育て家庭への支援の充実など、区立幼稚園の強みを活かした機能のさらなる強化を図ること。

また、単独3園については、幼稚園ニーズの減少を踏まえて順次閉園することとし、その資源を幼保一体施設の充実に充てるなど、区が目指すまちの将来像の実現や地域課題の解決に向けて様々な分野での活用を含め、有効活用を検討することとしております。

資料左下の幼保一体施設の充実については、4つの方向性を示しており、①幼保一体施設の特徴を生かした取り組みの推進では、0歳から就学までの一貫した保育・教育活動をより一層推進すること。②特色ある保育・教育に向けた取り組みの推進では、地域との連携による多様な交流、体験活動の一層の充実やインクルーシブ教育の推進など。③小学校への円滑な接続の推進では、小学校との交流機会の充実や架け橋プログラム、スタートカリキュラムなどの推進。④子育て支援の充実に向けた取り組みの推進では、地域子育て支援の充実や関係機関との連携強化による専門的、包括的支援などの推進がそれぞれ取組例として示されております。

また、単独園の閉園については、施設の老朽化が進んでいる伊藤幼稚園より順次閉園する方針が示され、伊藤幼稚園はこのときには令和5年だったのですが、今は令和6年度末をもって閉園し、城南、浜川につきましては、充足率や周辺の状況、伊藤幼稚園の閉園後の状態や状況を見ながら検討していくとの考え方が示されております。

資料右下の検討の経過をご覧ください。

経過につきましては、ホームページ上に公開していただいておりますが、令和3年度から4年度にわたり検討が行われております。令和3年度は、庁内プロジェクトチームによる検討会を2回開催し、区立幼稚園の役割や区立幼稚園の入園希望者減少の要因、区立幼稚園の今後のあり方などについて検討を行っております。また、併せて保護者対象の需要調査を実施しております。

翌令和4年度は検討委員会を立ち上げ、合計3回開催しております。検討委員会では、前年度の検討結果を踏まえ、今後の方向性についての事務局案を提案するとともに、閉園に関する具体的な進め方、スケジュールの検討を行っております。また、今後の区の乳幼児教育の質をどのように高めていくのかなどの議論もなされております。

これらの検討結果を受け、同年8月22日の文教委員会におきまして、区立幼稚園の状況についてご報告をさせていただいております。その際の報告事項は、幼保一体施設6園については施設の特徴を活かした取組を推進し、乳幼児教育のより一層の充実を図る。単独園3園については利用者数の推移および各園の充足率、施設老朽化に伴う改築費用等を踏まえ順次閉園することとし、特に老朽化が進んでいる伊藤幼稚園については、令和5年度末に閉園するというものでございました。

文教委員会での報告後、保護者会、未就園児の会、地域の町会長会議などで区の方針を説明しております。保護者の皆様などからは、閉園時期の見直しや来年度の入園を待っていた人の行き先の確保、伊藤幼稚園の存続などのご意見、ご要望。また、町会長の皆様からは、区の方針をおおむねご理解いただいた上で、利用者が困らないように進めてほしいとのご意見をいただいております。

このような保護者対応等の経過を9月16日の文教委員会におきまして報告させていただき、委員の皆様より令和5年度に伊藤幼稚園のみの入園を希望されていた方々の支援や城南、浜川幼稚園の今後に関する意見などを頂戴し、それらを踏まえ9月21日に伊藤幼稚園の閉園時期を令和7年3月末へと延期する決定を行ったものであります。この決定に従い、伊藤幼稚園につきましては令和7年3月末で閉園となっております。

次のページをご覧ください。

参考資料として、城南幼稚園の現況についてまとめさせていただいております。

項番1、施設の概要および項番2、園舎平面図につきましては、この後の視察の中でご説明させていただきます。

項番3、入園者数（4歳児利用者数）推移でございます。こちらは、各年5月1日現在の在園児数となっておりますが、町丁名では東品川3丁目および4丁目にお住まいの方が多く在園されており、園の近隣、徒歩圏内での利用がほとんどとなっております。

項番4、城南幼稚園周辺の乳児教育・保育施設ですが、こちらは城南幼稚園を中心として半径1km以内の幼児教育・保育施設をお示ししております。城南幼稚園周辺には、区立幼稚園1園、私立幼稚園2園のほか、区立認可保育園5園、私立認可保育園22園がございます。

次のページをご覧ください。

こちらは、浜川幼稚園の現況についてでございます。

項番1、施設の概要および項番2、園舎平面図につきましては、資料記載のとおりでございます。

項番3の入園者数（4歳児利用者数）推移ですが、勝島1丁目および東大井3丁目にお住まいの方が多く在園されており、城南幼稚園と同様に園の近隣、徒歩圏内での利用がほとんどとなっております。

項番4、浜川幼稚園周辺の幼児教育・保育施設ですが、周辺には私立幼稚園3園のほか、区立認可保育園7園、私立認可保育園16園がございます。

2 視察

○せお委員長

先ほどのご案内のとおり、特定事件調査を一度中断し、予定表2視察を議題に供します。

先ほど理事者より説明がありました単独園3園のうち、城南幼稚園の視察を行います。視察では、園内を見学しつつ、現在の園の運営状況や施設概要等について説明を受ける予定です。

なお、視察終了後に委員会室に戻り特定事件調査を再開しますが、そこでは今後の単独園の運営や方向性、幼保一体園の充実など、区立幼稚園のあり方について議論する予定です。そのことも踏まえま

て、委員の皆様には本視察に臨んでいただければと存じます。

これより視察に向かいます。第3庁舎2階横に停車しているワゴン車にお乗りください。

なお、この委員会室は施錠しますので、お手荷物以外はこちらに置いて行っていただいても構いません。

それでは、会議の運営上、暫時休憩いたします。

○午後1時13分休憩

〔視察場所：品川区立城南幼稚園（品川区南品川2丁目8-21）〕

○午後3時20分再開

1 特定事件調査

幼稚園・保育園に関すること

○せお委員長

これより、子ども若者支援者・共生社会推進特別委員会を再開します。

それでは、予定表1の特定事件調査を議題に供します。

引き続き、幼稚園・保育園に関するもののうち、区立・私立幼稚園のあり方についての調査を行います。

理事者より改めてご説明をいただき、その後に委員の皆様にはご意見、ご提案等いただいて、活発な議論をしていければと考えております。

なお、先にお伝えしますが、この後の質疑においては視察前の理事者からの説明や視察内容を含めて議論を行いたいと思います。

それでは、理事者よりご説明をお願いいたします。

○芝野保育入園調整課長

それでは、私から区立幼稚園の閉園を行う場合の手続の流れについてご説明させていただきたいと思います。

閉園までの流れでございますが、園の利用状況、入園状況や閉園後の施設活用のニーズなどを見据えながら、今後の方向性や手続について教育委員会や法務担当所管課と協議を行い、協議が整った段階で閉園の方針について教育委員会でご審議いただく形となります。

その後、文教委員会もしくは当委員会での報告を経て、幼稚園保護者、地域住民、教職員等に丁寧に説明を行ってまいります。

その後、毎年11月に実施しております新入園児の募集を順次停止していき、閉園が予定される年度において閉園のための条例改正を行う教育委員会の決定をいただき、区議会定例会に条例改正議案を上程、議決後、園児が全員卒園となるタイミングで閉園となります。

閉園までの期間ですが、現在通園されている園児および4歳からの入園をお待ちになっている3歳児を持つ保護者への配慮が必要となりますので、閉園の3年前までに入園を希望する保護者の方への周知を行っていく予定です。

次に、閉園後の保育園需要の引受け先でございますが、先ほどの資料にもありましたが、近隣の区立・私立幼稚園および最近では園バスを使って積極的に園児を受け入れていらっしゃる私立幼稚園がありますので、こちらに対して受入れ等について特段の配慮をお願いさせていただきたいと考えております。

施設活用につきましては、現時点では決まっておりませんが、学校施設という特性を鑑みながら地域課題の解消やニーズを踏まえた検討を行っていきたいと考えております。

○せお委員長

説明が終わりました。

本件につきまして、ご質疑、ご意見、ご提案等がございましたら、ご発言願います。また、質疑等は委員会冒頭の理事者の説明、視察の内容に関連したものでも構いません。

○西村委員

ご説明、ありがとうございます。視察もありがとうございます。

現地でも質問させていただいたのですけれども、小学校との接続を含めて素晴らしい幼児教育をされてきたということが確認できましたし、ほかの施設でまねができるものではないので、本当にそっくりそのまま別の園でも実施していただきたいなと個人的には感じるところででした。ですが、例えば朝と夕方の預かり時間が今の区民ニーズに合っていないだったり、1日400円の費用がかかる部分だったり、なければもっと園児も来るのではないかなと思いましたので、いろいろと園ご自身でも努力されておることは理解できたのですけれども、その辺りを改めて伺いたいです。

あと、園長と校長が一緒というのは他区を含めてもかなりレアなケースではないかなと思っておりまして、改めて区内に校長先生と園長先生が同じ園が幾つあるのかを伺えればと思います。

○染谷保育施設運営課長

前段の預かり保育の関係について、私のほうからお答えをさせていただきます。

まず、現状の預かり保育については、幼保一体施設も含めて実施している中で、いわゆる年齢区分型と言われる幼保一体施設の預かり保育のニーズが圧倒的に高く、時間帯につきましても年齢区分型についてはやはり18時半までのご利用というのが一番多くはなってくるのですが、それ以外の並列型と単独幼稚園の預かり保育についてはいわゆるボリュームゾーンが17時までとなっております。現状のそういったところと、実際に時間延長をすることによって幼稚園教諭もそうですし、それから会計年度任用職員の加配というのは当然必要になってくる部分もございますので、ニーズをきちんと確認させていただいた上で、そこは慎重に検討させていただければと考えております。

○石井学務課長

現行、小学校の校長と幼稚園の園長を兼任している状況でございますけれども、本日視察に行かれた城南幼稚園、あとは浜川幼稚園、続いて第一日野幼稚園、そして台場幼稚園の4校となっております。

○西村委員

ありがとうございます。

質問をさせていただいた小学校との接続というのは、区が一生懸命取り組んでくださった中でも校長と園長が一緒ということの魅力を改めて視察で感じたところです。

資料の中に区立幼稚園が担うべき役割を踏まえた方向性の検討とありまして、視察の中で園長先生から受皿になっている部分があるというお話があったのですけれども、区として区立幼稚園の担うべき役割というのは様々な時代背景があると思いますので、現状においてどのように捉えておられるかをお聞かせください。

○芝野保育入園調整課長

区立幼稚園の現状の役割のご質問をいただきました。

区立幼稚園は、今までの歴史的経過から私立幼稚園の補完、受皿ということで、これまで展開をして

まいりました。今後も私立幼稚園の補完という考えは持ちつつ、運営をしていくということになると思います。

また、近年では特別な配慮を要する児童への対応とか、幼稚園、小学校への接続もニーズとして出てきておりますので、そちらは幼保一体施設のほうでしっかりと受け止めて進めていきたいというふうに考えております。

○西村委員

ありがとうございます。

障害児のお子さんに関しては、特に区立園に安心感を持つという保護者の方が多いのだなということを変更して感じておりますので、幼保一体を含めて障害児の受入れ体制というのをしっかりとやっていたきたいなというのと、やはり保護者にとって区立であるということがすごく安心感につながっているのだなというのを改めて感じたところです。

計画に書かれておりますように、行政系資源を有効活用する観点というのもバランスよくまちづくりの観点からも検討しなければいけないと思いますので、その点に関しては区民の皆様に理解を得ていただけるように進めていただきたいと思うのですが、昨日文教委員会の資料で城南小と城南第二小の今後の予測数が公表されておりますけれども、この資料を見るまでは学区の見直しもあった住民の増えるエリアですので、これからはタワーマンションなどが建ってどんどんと増えていくのかなというふうに思っていたのですが、若干そういった予測ではない、城南小は少しずつ足りていくというような数字だったかと思います。文教委員会の資料のその辺りを見まして、そうであるならば早急に検討していただかなければいけないことだとは思いますが、教育委員会がしっかりと他課と連携しながらイニシアチブを持って進めていただくことが重要になってくるかなと思いますので、最後にこの点だけご答弁をお願いいたします。

○芝野保育入園調整課長

城南小の件につきまして、文教委員会のほうで出された件ということで、こちらに私も出席しておりましたので拝見させていただきまして、需要についてはあくまで予測ということですので、将来的なところも含めまして教育委員会としっかり連携を取りながら幼稚園の跡地、もしも跡地になった場合の有効活用のほうは考えていきたいと考えております。

○石井学務課長

昨日の文教委員会にて学校選択制の運用等についての報告をさせていただく際に、現状の人数を示させていただきました。こちらは、今年度行った推計に基づいて一定程度の数値を出させていただきました、しばらくはまだ人数の多い状況は続きますけれども、学区の変更によって城南小学校については一定程度落ち着いてくる見込みでございます。

あとは、今はやはり推計ですので、今後年度が後になればなるほど推計と実際の乖離というのはどうしても出てきます。なので、その辺りも推計を細やかに言いながらやっていきたいというふうに考えているところです。また、最新の人口推計ですと一定程度それまでに行っていた人口推計よりもピークが後になってくるというふうな現状もありますので、そういった動向も踏まえながら丁寧に他課としっかり連携していきながら進めていきたいと考えているところでございます。

○鈴木委員

視察を組んでいただいて、ありがとうございました。

私は、子どもたちが全部保育園でしたし、区立の幼稚園というのはなかなか具体的にイメージが湧か

なかったのですけれども、改めてこんなに熱心に取り組がされていて、小学校と幼稚園が併設しているというメリットですとか、それから公立だからこその支援というところでどんな事情の子であっても安心して通える幼稚園というところで、お話しいただいた主任の先生も本当に熱心に取り組まれているというのがよく分かってすごくよかったなと思っています。

あれだけお話を伺って熱心に取り組まれているという姿を見たときに、閉園という方針が区のほうで出されていますけれども、これは改めてもう1回検討し直すということが必要ではないかなというふうに思ったのですが、もう決定ということで進めていくということとは変えられないのか伺いたいです。

それから、文教委員会の議事録を読んでいたしたら、伊藤が令和6年度末、今年の3月末で閉園になったわけですが、残りの城南、浜川はその後すぐに閉園に向けた検討に取りかかるということだと答弁がされているわけですが、城南、浜川というのは区としては何か取組とか検討がされているのか、その点も教えていただきたいと思います。

それと、資料で示していただいた中で、区立幼稚園の今後のあり方検討委員会というのが3回行われて、8月22日に文教委員会で区の方針を報告とあるのですが、そのところでこの資料に品川区立幼稚園の今後の運営に関する基本方針の素案というのが28ページ、29ページぐらいにわたって出されていたのですが、明確に素案が取れた基本方針というのは出されたものがあるのか。ホームページで見つからなかったの、今後の運営に関する基本方針というのは作られたものがあるのかどうかについても教えてください。

○芝野保育入園調整課長

3点、ご質問いただきました。

まず、1点目の閉園の決定でございますが、閉園の方向性のほうは決定させていただいて、実際に教育委員会のほうが廃園という手続は行いますので、そこまでは至っていないというような状況になります。

2つ目の文教委員会の中で城南幼稚園、浜川幼稚園の検討のということでございますが、こちらは毎年検討のほうはさせていただいております、これは11月に毎年新規入園の申込みをされる方が統計上出てきますので、こちらのほうで入園状況を見させていただきながら検討をしております。あと、伊藤幼稚園の廃園の状況も見ながら、併せて検討をさせていただいております。

3つ目の素案の件でございますが、申し訳ございません。素案の段階で現状は止まっているということで、実際に伊藤幼稚園のほうの閉園の期間が延びましたので、こちらも併せて引き続き検討していこうということで、素案の段階で止まっているということでございます。

○鈴木委員

毎年入園の状況を見ながら検討していくというのは、入園の希望者がここまでだったら具体的な検討に入るとか、そういうものがあるのか。

それから、伊藤保育園のその後の状況を見ながらということですが、それは具体的にどういうことなのかということもお聞かせいただきたいと思います。

それから、私は先ほどの視察を通して公立だからこその支援というのは本当に大事なことで、改めて実感したのですが、そこところは幼保一体でやっていきたいということですが、2つの園がなくなったときに幼保一体で近くにある園庭、例えば具体的に城南幼稚園がなくなってもここが担えるよとか、浜川幼稚園がなくなったとしてもここが具体的に担えるよと、そういうものというのがあのか。あったら具体的に教えていただきたいと思います。

○芝野保育入園調整課長

まず、1点目のご質問の具体的な検討というところでございますが、毎年入園状況を見させていただきまして、クラス編成ができないほど人数が減ってしまう場合にはもちろん具体的に検討しなければいけないというところでございますが、それが学務課のほうで作っております指針がございまして、そちらでは10人ということで、クラス編成が10人を下回る場合には検討しなければいけないとなっております。あと、在籍率で言えば50%程度です。こちらのほうを基準に検討をしております。今のところは、それを下回るところはないということでございます。

続きまして、伊藤幼稚園の件でございますが、令和7年3月31日で廃園させていただきまして、その後にお声を聞かせていただくようなこともあるのですが、特に大きな混乱はなく閉園を迎えておりますので、こちらのほうは順調にいつているかなということでございます。

あと、公立だからできる支援ということでございますが、もちろん私立でも同じような支援ができないかどうかというのはきちんと私立のほうに伺って進めていきたいと思っておりますが、例えば城南幼稚園であればちょっと離れておりますが台場幼稚園などの幼稚園がありますので、そちらのほうもきちんと上の連携を取りながらやっている支援もございます。

○佐藤保育事業担当課長

先ほどの説明に少し補足をさせていただきたいのですけれども、私立幼稚園におきましても障害のあるお子さん、特別な支援が必要なお子さんをお預かりいただきましたときに、区といたしまして一定の金額を補助するという事業を実施してございます。この事業の実績につきましても、着実に実績を積み上げているものでございますので、そうした公立で行っている役割というのを私立のほうも現時点におきましてもしっかりと実施していただいているものでございます。

○鈴木委員

公立だからできる支援というのは、先ほどの視察のときにも言われたように同じ公立同士なので子ども支援センターとの連携だったり児童学園との連携だったり、そういうふうなところも日常的にやり取りができる仕組みと言うのですか、そういうふうなものもあるというのは本当に大きなメリットではないかなというふうに思いました。そういうところで、ただ金額を補助すればそれができるかということではない公立のよさというのがあるのかなというふうに思ったのですけれども、そこら辺のところはどう考えられているのでしょうか。

それから、城南で言えば台場。でも、浜川には出された絵の中には公立の幼保一体というのはいないですね。やはり毎日通うところなので、近くにということがすごく大事な視点ではないかなと思います。そういうところでは、幼保一体は6つなので全体を網羅してここにもあるではないかというところまで設置されているわけではなく、貴重な区立の幼稚園というところでまだ教育委員会としても廃園の方向で決定しているというわけではないということなので、改めて今日の視察を受けて私は公立だからこそできる支援。それから、地域の方々に支えられながら地域としても本当に継続していただきたいという思いがあつていろいろと連携されているんだなという思いがしましたので、ぜひともこれは廃園の方向を改めて検討し直すというところも視野に入れていただきたいということも要望として改めて出させていただきますと思います。

○染谷保育施設運営課長

子ども家庭支援センターを含む関係機関との連携のお話があったかと思うのですけれども、例えば今日の視察の中で話がありましたグループウェアが共通で使えるとかという、そういうツールの部分の話

に関しては一定あるかと思うのですが、何も子ども家庭支援センターが公立のところしか回らないですとか、そことだけしか連携しないということは決してございませんので、そういった意味では私立・公立関係なくお子さんがきちんと守られている状況を確認するために支援をしているという体制には変わりはないというふうに考えております。

○澤田委員

幾つか質問があるのですが、伊藤幼稚園が閉園となりましたけれども、閉園に向かって、終了に向けてというか、いろいろと工夫を凝らしてこられたと思いますが、閉園が決定したときの職員の皆さんのキャリア形成、いつぐらいに閉園しますよというのが決まったときの辞めるまでの、閉園までのキャリア形成だったり、閉園後の身の振り方というか、そういうのはどのように区としてはサポートされていたのかなというのをお聞かせいただければと思います。

○石井学務課長

本日は指導課長がいないので、私で答弁できる範囲でお答えできたらと思っております。

伊藤幼稚園の閉園ですけれども、その当時は退職者が出たので、その退職者に対しての不補充を行うということで、基本的にはきちんと区内で勤務できるような形でバックアップをしてきたところでございます。そうしたことも含めて、もし仮に区立幼稚園が閉園したときの教員の処遇に関しましては、区立幼稚園全体の退職者数とかの状況も踏まえながら、幼稚園の教員として区内の幼稚園で引き続き勤務できるような形で、当然人事当局とも調整をしっかりとした上で最大限努力していくというふうな形で進めていきたいと考えてございます。

○澤田委員

幼稚園教諭は大変貴重な人材かと思っておりますので、今後城南幼稚園、浜川幼稚園と閉園が方針としては決定していますけれども、閉園に向けて先生方、職員の皆さん、そして保護者の皆さんが不安に思わないように、引き続きしっかりと前後をサポートしていただければと思います。

次の質問ですが、現在の城南幼稚園について先ほどいろいろと質疑がありましたけれども、行政として考えていらっしゃる城南幼稚園の運営上の課題、ソフト面での課題についても考えていらっしゃるものがあれば教えてください。

○染谷保育施設運営課長

運営上の課題というところでございますが、幼保一体施設の部分とも関連するところであるのですが、年齢区分型で実施している幼保一体施設に比較して、やはり園児数が少ないというところが一つあるかと思えます。園児数が少ないというところにおいて行っていく教育活動というところは、先ほど視察の中でも話はあったかと思えますけれども、一定そういったところには一つ課題はあるのではないかとこのように感じているところです。

○澤田委員

分かりました。ありがとうございます。

人数がやはり年々減少してきて、ほぼ横ばいなのか、減ったり増えたり移動はあってもというところで、先ほども10人がボーダー、半分がボーダーというところでお伺いしましたけれども、そこについてはちょっと難しいのかなと思います。課題はやはり人数というところで、今は私立幼稚園と小学校が一体になっていて城南小学校はとてもすばらしいのですけれども、やはり園児の減少というのがあるので、これから閉じていく方向というのは仕方ないのかなとは思っているのですが、先ほど職員の方のこともお話しさせていただきましたけれども、先ほども城南幼稚園のほうの質疑にもありましたが、閉じていく

中でも預かり保育の延長だったり、それも含めて保護者の方のニーズを今後しっかりと吸い上げてというか、卒園まで、閉園までしっかりと課題なんかの解決にも取り組んでいただけたらなと思っております。これは要望です。

○せらく委員

先ほどの澤田委員の質問に関連してですけれども、今は区立幼稚園、単独園で城南幼稚園と浜川幼稚園については人数が減ってきているところが課題というお話だったと思うのですが、人数が減ってきて教育活動が思う存分できないといえますか、そういったところは子どもにも影響する部分だと思うのですが、費用的にも影響してくるもののでしょうか。人数が少ないことについてのもう少し具体的な影響を教えていただければと思います。

○染谷保育施設運営課長

単独の幼稚園と、それから幼保一体施設を含めまして、経費の部分で言いますとやはり預かり保育が長い幼保一体施設のほうを経費としてはかかっております。ただ、園児1人当たりとして見た場合につきましては、やはりそういった施設のほうが園児数は多くなっているような状況がございますので、園児1人当たりで見た場合については当然ながら園児数が少ない園のほうコスト的にはかかっているという状況にあるかと思えます。

○せらく委員

ありがとうございます。分かりました。

視察でお話を聞いていた中で、私立と区立の単独園ですけれども、違いとしてはやはり3歳は預かることができないので私立を選ぶ方もいらっしゃるというようなことが出ていたと思いますが、単独園に限り例えばモデル的に3歳を受け入れて人数を増やすだとか、そういったことは考えられたことはありますでしょうか。

○芝野保育入園調整課長

3歳児の受入れでございますが、先ほども少し答弁させていただいたとおり、私立幼稚園の補完ということで始まっている区立幼稚園でございますので、現状ではその考えは持っていないということでございます。

○せらく委員

私立のほうが多く経営されているだとか、そういった事情も以前からお聞きしていますので、そういったところの受皿という意味で区立園をやっているということが分かりましたので、ありがとうございます。

○澤田委員

先ほど聞き忘れてしまったことがあるので、もう一度聞かせてください。

今もお話がありましたように、区立幼稚園というのはあくまで私立幼稚園の補完であるというところですが、特別支援の受皿に今はなっているというところで、私立幼稚園には加配を区からというのはできないかと思うのですが、人を雇う際に助成を出していらっしゃるではないですか。私立幼稚園の中で特別な支援が必要なお子さんを預かっている園は何園あるのか、もう一度確認させてください。

○佐藤保育事業担当課長

特別な支援が必要なお子様をお預かりいただいている私立幼稚園の数についてでございますが、こちらは入園されている状況が年度によって異なってきますので、一概に何園だとお話しできないところもあるのですが、半分ぐらいの園に関しましてはそういった児童をお預かりいただいているのでは

ないかなというふうに認識しております。

○澤田委員

ありがとうございます。

基本的に例えばイメージというか、私立園だと受け入れるも受け入れないもその園の方針というのものがあるのかなというのがあるのですが、5園ということは割と結構受け入れてくださる園があるのかなと今聞いて思ったのですけれども、例えば城南幼稚園であれば一番近い公立のほかの幼稚園でというと台場幼稚園とおっしゃっていましたが、ちょっと遠いかなというのがあります。例えば、台場幼稚園でなくてもほかの近くで入れるような私立園で、もし「うちは受入れをしていないよ」みたいなところがあるのであれば、そういう園にも特別な支援が必要なお子さんに対応する方を入れるとこういう助成が出ますよみたいな形で進めていただくことで、台場幼稚園まで行かなくても城南幼稚園が閉園になった際に近くの幼稚園で通える場所があるという安心感をつくるためにもそういう活動というか、そういうこともしていただけたらいいのではないかなと思うのですが、いかがお考えでしょうか。

○佐藤保育事業担当課長

まず、大前提といたしまして、どういったお子さんであっても私立幼稚園にお預かりいただくというのが基本であります。ただ、私学助成の園になりますと園の方針等々というものがございますので、そうした方針と保護者の方がご納得いただいて入園になっているというものがございます。

一方で、新制度幼稚園という園がございまして、これは子ども・子育て支援法ができたときに新たな制度としてできたものでございますが、こちらに移行されている園に関しましては応諾義務という義務がございまして、認可保育園と同じように希望されているお子さんをお預かりしていただくというのが原則というふうになってございます。

今回で言いますと、城南幼稚園の近くには八潮幼稚園という幼稚園がございまして、こちらは既に新制度に移行されている園でございますので、どういったことでありましてもご要望があった際にはお預かりいただくというものでございます。

○澤田委員

ありがとうございます。八潮幼稚園のことをしっかり理解できていなくて、申し訳ありません。でも、仮に城南幼稚園が閉園になったとしても、特別な支援が必要であってもなくても通える幼稚園は台場幼稚園もそうですし、ほかにもいろいろとあるというのが分かったので安心しました。

○大倉委員

先ほど来お話があった閉園後の地域課題とかニーズに沿ってということで、今区が考えている地域課題とかニーズというのはどういったものになるのでしょうか。

また、その地域課題とかニーズというのはどうやって根拠というか、アンケートなのか、どういったもので示していけるのか教えてください。

○芝野保育入園調整課長

地域課題、ニーズの件のお尋ねでございますが、閉園が決定しました段階で保護者、地域の方にしつかりとお話をお聞きさせていただきまして、その中でその前提として活用が決まっていればそれをお伝えするというところでございますが、そうでなければそこでしっかりとニーズを拾わせていただきまして、もちろん学校施設ということでございますのでいろいろな制約がございますが、そちらのほうはしっかりと受け止めて対応していきたいというふうに考えております。

○大倉委員

ありがとうございます。

今のお話で、閉園が決まってから地域課題、ニーズを聞きながら進めていくという一方で、活用が決まっていればお知らせするということだと、地域課題とかニーズはいつ取っているのかが分かりません。

あと、もう1つ疑問に思っていることは、まさに今言っていたように何になら活用できるのかというのは学校施設になるのか分かっていないのですけれども、そこはどういう施設なら活用できるとか、そういうルール、本部のほうとも連携するというお話もあったと思うのですが、その辺の活用ができるものは限られているというふうに思っているのですけれども、どういったものが活用として想定されていたり、でき得るのかということを教えてください。

○佐藤子ども未来部長

跡地活用の検討のご質問でございます。跡地活用は、基本的に企画部のほうで所管をしてニーズ等の把握をしているところでございます。

先ほど少し答弁があったのですが、廃園が決定してからの検討ですと遅い面もありますので、そこは常に企画部門と連携をしながらほかの幼稚園との需要のほうも情報共有をしているところでございます。したがって、企画部門のほうでは各地域でのニーズでありましたり、区民のお声でありましたり、要望というのは常に把握しておりますので、その辺でどういった施設が少ないかというのはリサーチしているところでありますが、引き続き全庁体制で企画も含めて連携して区民のニーズを的確に捉えた施設の活用について早急に方針を決めて、またお話ししていきたいというふうに考えております。

○大倉委員

ありがとうございます。分かりました。

廃園してからというところでは、廃園計画が決まっていく中で考えながらということだというふうに理解しましたので、ぜひいろいろ連携をしながら地域の課題、また、地域のニーズに合ったものというところで、何に使えるかまではお答えができないということだと思っておりますので、調べながら地域の声とかありましたら届けていただければと思います。

あと、公立だからできる支援というところで、特別の支援が必要とか事情のある子が区立幼稚園には結構来ているというところは、一つ地域の課題だったりニーズだったりするのかなというところ。また、相談しやすい体制というのが何度もお話の中で出てきたかなという、園としての取組としてそういう体制をつくっていくというところでもあったかなと思いますけれども、そういったところも含めてぜひ様々検討していただければと思いますので、要望して終わります。

○つる委員

先ほど来、各委員から現場でも質疑があった中で、これまで培ってきた人材の力というのをしっかりとシームレスに園にしっかりと移していく。先ほど人材の話もありましたけれども、ぜひハード面での動きのあるニーズに対してしっかり対応できるというのが一つあるのかなと思います。そういう意味では、既存のニーズ。これはハードで、例えば幼稚園としての受け入れがなくても、先ほど来あるとおり公立というところも活かしながら、関係機関という表現がありましたけれども、そういったところについてはエリア的な、ハード的なところではなく、そうしたソフト面のエッセンスが人材をまさに通じてあるのだと思うので、そこのところはまさに人の活かし方。先ほどお話を聞く中では非常にそのノウハウの力がそのまま園がなくなって人材も活躍の場がない、これは基本的にはないと思うのですが、ただ課題に対する対応というところでは児童相談所の研修ではないですけれども、これまで培ったことをしっかりと川上、川下の話もあるので、そういうノウハウを活かせる対応、対策はしっかりとやる必

要があるのかなと思いました。

その上で大きい方向性というのは、単独園の方向性は示されているのですが、その上で例えば今日の資料でいただいている経緯の2行目の後半に就学前人口についてあって、就学前人口が減少に転じ今後減少傾向が続くと見込まれるというふうにあるわけですが、この期間というのはどのぐらいの想定を見て、推計を見て前提としてあるのか改めて教えてください。

○芝野保育入園調整課長

就学前人口の減少等々のこれからの考え方ということでございますが、この4月に子ども計画を策定させていただきまして、就学前人口につきましては令和7年が一番少ない状況で、そこから緩やかな増加に転じるということで、令和11年度までの推計値のほうが出ております。そちらのほうは緩やかに増加していくということでございますので、それに合わせた幼稚園の施策を考えていかなければいけないかなというふうに考えておりますが、大きな話になると企画課のほうの人口推計の話になるので、詳しいことまではなかなか私のほうではつかめないところではありますが、いずれにしろしばらくの間は一定程度増加するというように聞いておりますので、その推移を見ながらこの施策を考えていきたいというふうに考えております。

○つる委員

そうすると、子ども計画の108ページ、前回のこの委員会で添付いただいているのはたしか抜粋であって、今まさにご答弁いただいたように令和6年と7年を境に就学前人口は微増ですよ。ただ、今日いただいた資料だとこれまでというのがいつまでか。これまで増加傾向が続いていた就学前人口が減少に転じ、今後も減少傾向が続くと見込まれるというのは、この期間設定で言うと子ども計画上は令和7年から令和11年にかけて今ご答弁いただいたように増加ですよ。今のご答弁の中に企画という表現もありましたけれども、区全体の人口の取り方と子ども計画上の人口の取り方、これは住民基本台帳より作成ということであるわけですが、その前提が減少なのか増加なのかということで方向性は決まっているわけですがあくまでも推計なので、これは先ほど現場でもいろいろ伺って、質疑ではないところでもいろいろな声としては、例えば勝島ですとかいろいろなエリアでのまちづくり、そうした住まいのありようによっていろいろな人口の動きがあるだろうということも含めてだと思うのですが、前提がどちらかを整理させてください。

○芝野保育入園調整課長

申し訳ございません。この資料の前提をご説明することが漏れておりました。

こちらの資料につきましては、令和3年、4年に検討が進められました当時の資料を一部加工させていただいていますので、この背景につきましては令和3年、4年当時の状況が記載されております。大変紛らわしい表現で申し訳ございません。

子ども計画に策定されている人口推計のほうが最新の状況でございます。

○つる委員

そういう資料上の整理と言いましょか、ここは本日の資料ではそういう記載で、ただ、前回の委員会では子ども計画の記載でも当然そう書いてあるのですよね。だから、減少なのか増加なのかそもそものところがあるわけですが、あくまでも推計で増加傾向の中で行政、ニーズ、行政の財産の管理上の幼稚園の課題という観点でこの間ずっと、特に令和4年は集中的にという中にある前提だということですね。そこは、整理していくことが必要だと思います。今後またいろいろな質疑をやっていくときに前提が違ってしまふといけないのかなと思います。

○西村委員

2回目で申し訳ありません。2点、伺いたいです。

過去の議事録で廃園後の活用で、例えば学校に転用というようなことになった場合に幼稚園から学校というのは転用ができない形になっており、費用的なところはもしやるとしたら返還という形になるという議事録がありました。ちょっと分からないと思いましたので、この部分を教えていただければと思います。

○芝野保育入園調整課長

学校への転用の件でございますが、幼稚園施設から学校施設に転用する場合には用途が変わることでございますので、それに対して一定の補助が出ております。そちらのほうを返還するというようなことでございます。

○西村委員

理解しました。

ですから、返還したら転用できるという認識でよろしいですか。

○芝野保育入園調整課長

返還したらできるということで、今は考えております。

○西村委員

ありがとうございます。

最後になるのですが、やはり今日視察をさせていただいて、廃園の方針ではありますけれども、品川区が長年取り組んできた区立幼稚園というものが大変信頼できるものだったのだということを改めて実感しています。保育ですとか教育は大変目に見えづらくて、子どもが育ってからでないとその成果が分かりづらい部分があったりしまして、このノウハウは財産ですので必ず何かしらの形で踏襲をしていただきたいというのはぜひともお願いをさせていただきたいと思うのですが、一方で園長先生もおっしゃっていましたが、学級編制を15人以下で続けることが幼児教育として理想的なのかどうかという点も大変重要な視点だと思っておりますので、幼保一体と私立幼稚園も含めまして品川区の幼児教育が充実していけるようにぜひお願いしたいと思っておりますので、最後に一言お願いできればと思います。

○佐藤子ども未来部長

区立幼稚園のノウハウの継承と今後の幼児保育教育についてのご質問です。

私も区といたしましては、これまでも諸先輩方の大物部長さん等々でそういった面をきちんとやっていこうというところで、まずは幼保一体施設をつくって、幼稚園教諭と保育士が同じ場で保育教育を行い、そこで保育士がそういったノウハウを蓄えて単独の保育園に行って高い保育教育を行うという一つのスキームが出来上がっております。そこに関しましては、単独幼稚園の幼稚園教諭に関しましてもそういったスキームの中の一つで組み入れて、効率的かつ円滑に区全体の幼児教育の底上げを図っているところでございます。その辺は我々として強く心に思っておりますので、その辺と行政財産の有効活用も含めてしっかり進めていきたいと思っております。

○鈴木委員

基本的なことを教えていただきたいのですが、預かり保育の保護者負担というのはどういう状況になっているのですか。今は保育園にしても保育料の無償化というのがどんどん進んで、基本自己負担がなく預けられるというのがどんどん進んでいると思うのですが、そういう中で預かり保育がどういう状況で、区としても今後どう考えられているのか、その点を教えていただきたいと思います。

○染谷保育施設運営課長

現状、預かり保育の利用料につきましては預かる時間帯によって変わってくるところではあるのですが、それに対して無償化の制度によりまして一定額ではございますが、そちらのほうを公費で負担をさせていただくという仕組みになっております。具体的には、1日当たり450円が上限というように形で現状はなっているところでございます。

○鈴木委員

利用料は1日400円、一定の条件を満たし区の認定が下りた場合は無償化となりますとここには書かれているのですが、450円までは無償化になるということでしょうか。その点をお聞かせいただきたいと思います。

それから、預かり保育が基本的に単独園は9時から17時までということで、幼保一体は7時半から18時半までという状況になっているのか、そこが実際はどうなっているのかを教えてください。

○染谷保育施設運営課長

先ほどの利用料につきましては委員がおっしゃるとおりで、450円を上限としてその部分については無償となるという条件でございます。

それから、預かり保育の時間でございますが、城南幼稚園については17時というところで、そのほかは18時半の区分と19時半の区分の園がございまして。具体的には、先ほどちょっとご説明させていただいた年齢区分型と言われる御殿山すこやか園と二葉すこやか園の2園については預かりの時間が長く、夕方19時半までという時間設定になってございます。

○鈴木委員

単独園だから17時までというわけではなくて、その地域の状況、なぜそういうふうに園によっての違いがあるのか。例えば、地域の中で要望が多ければ拡大されるというふうなことも検討できるのか、そこら辺のところはどうなっているのかも教えてください。

○染谷保育施設運営課長

時間帯の設定につきましては、実際にご要望も受けながら必要に応じて設定の変更自体は可能であるというふうには考えておりますけれども、先ほどご説明させていただいたとおりで、時間延長をすることによってかかってくる経費の部分もございますので、そちらは慎重に検討させていただければと考えております。

○鈴木委員

ありがとうございました。

あと、今回の伊藤幼稚園の廃園についてもそうだと思うのですが、廃園となると地域の方からの残してほしいという声が必ず出てくると思います。そういう中で、先ほども廃園の検討というところはクラス編成が10人以下でできなくなるとか50%以下になるというふうなところが基準と言われましても、今日視察でいろいろなお話を伺う中でこの園がどれだけ大きな役割を果たしているのかというのを実感したのですが、そういうところでは実際に通われている方ですとか、地域の方がその幼稚園をなぜ選んでいるのかだったり、地域の方々の幼稚園に対しての思いだったり、私はぜひとも当事者の声、地域の方々の声を聞いていただいて、この10人や50%というだけではなく検討の材料としてもご検討いただきたいと思いますと思うのですが、その点はいかがでしょう。

○芝野保育入園調整課長

当事者の声を聞いてほしいというようなご要望でございますが、やはり第一義的には廃園の方向性は

決まっておりますので、ご要望は受け入れることはできますが、それを客観的な形になかなかできないところもあります。なので、まず一義的にはクラス編成ができる人数が集まるのか、在園率が50%を超えているのかどうか、こちらのほうで判断させていただきながら、ご理解のほうは丁寧に各地域のほうを回らせていただいてやっていきたいというふうに考えておりますが、最初の段階でご要望を聞くというのはないということでございます。

○鈴木委員

改めて、今日のお話を伺って皆さんからも出ていましたけれども、本当に熱心に取り組まれて区の財産という、そういうものも実感をいたしました。なので、地域にとっての財産というふうなこともあると思いますし、利用者にとっての財産というふうなこともあると思いますので、私はぜひ当事者の声も聞きながら、これがどれだけ豊かな、大きな財産なのかというところも検討の中にぜひ入れていただきたいということは要望させていただきます。

○せお委員長

ほかになれば、以上で本件および特定事件調査を終了いたします。

3 その他

次に、予定表3のその他を行います。

その他で、何かございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○せお委員長

ないようですので、以上でその他を終了いたします。

以上で、本日の予定は全て終了いたしました。

これをもちまして、子ども若者支援・共生社会推進特別委員会を閉会いたします。

○午後4時18分閉会